

## 編集後記

『中京大学文学会論叢』第八号をお届けする。

今号は、中古、近世の文学、中国文学から、室町時代、近現代の史学研究、近年、学界の潮流ともいえる学際的な研究まで、論文八篇を掲載するバラエティに富んだ誌面となった。お忙しい折にご投稿くださった会員の皆様に感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症対策の一環で、昨年度中止・延期となった文学会春季・秋季大会講演会を、オンラインという形ではあるが、開催できたことを喜ばしく思う。それと同時に、これまで当たり前のように行ってきた対面でのコミュニケーションの価値を思い知らされている。どのような形態となるかは状況によるし可言えないが、執行部としては、対面での開催の可能性を模索している状況である。二〇二二年度春期大会のご案内は、四月以降、改めてお送りするので、今しばらくお待ちいただきたい。本会の発展のために、会員諸士には奮ってご参加いただければ幸いである。

(宮)

中京大学文学会論叢 第八号

(『中京国文学』通号 第四十一号)

令和四年三月十五日 発行

編集兼  
発行者 中京大学文学会

代表 播 磨 良 紀

名古屋市昭和区八事本町一〇一ノ二

電話 (〇五二) 八三五 七一―

振替 名古屋 六一六〇〇三〇

印刷所 株式会社 一 誠 社

名古屋市昭和区下構町二ノ三二

電話 (〇五二) 八五一 一一七一

表紙題字(書) 樽本樹邨(英信) 名誉教授